

公立中合同部活動実施へ 運動部でも「準備運動」



クラウチングスタートの姿勢について中学生に説明する大学生(手前左)

八学大生が陸上部指導

ハ
戸

八戸市教育委員会は16日、市東運動公園陸上競技場に市立中学校の陸上部員を集め、試験的に合同部活動を行った。八戸学院大陸上部員20人が指導を担当し、16校の1、2年生約180人が種目ごとに専門的な技術や練習方法を学んだ。
(千葉真由美)

16校180人参加 「他校との練習 刺激に」

公立中学校の休日部活動を地域のスポーツ団体や民間事業者に委ねる「地域連携・地域移行」の前段階として、市教委は来年度から、競技や団体ごとに複数校による合同部活動を実施する。10月5日には美術・総合文化部の合同部活動を試行しており、運動部では初めての試みとなった。

中学生は短距離、中長距離、ハードル、走り高跳び、走り幅跳び、砲丸投げの6ブロックに分かれ、それぞれ大学生が考案したメニューに沿って約3時間練習。各校の顧問は見守りのみ行った。短距離では、大学生がクラウチングスタートの適切な姿勢を中学生の前で実演し「背中が丸まっていると足裏にパワーが伝わらない」などとアドバイスしていた。

ハードルの指導を受けた長者中2年の対馬帆奏さんは「他校の部員と練習することで、自校にはない練習法などの情報を知ることができた。刺激を受けた」と感想を語った。

走り高跳びの指導を担当した八学大陸上部主将の工藤敬輝さん(3年)は「高校体育教員を目指しているので、実際に教える難しさを体験できた。専門の指導者がいない学校もあると聞いたので、今後機会があれば素質のある生徒が全国を目指すお手伝いができれば」と話した。